



## 第3章 公共交通を取り巻く課題



### 3. 公共交通を取り巻く課題

#### 3-1 現況・課題の整理

- 利用実態調査から検討すべき現況・課題を整理した。整理内容は以下のとおり。

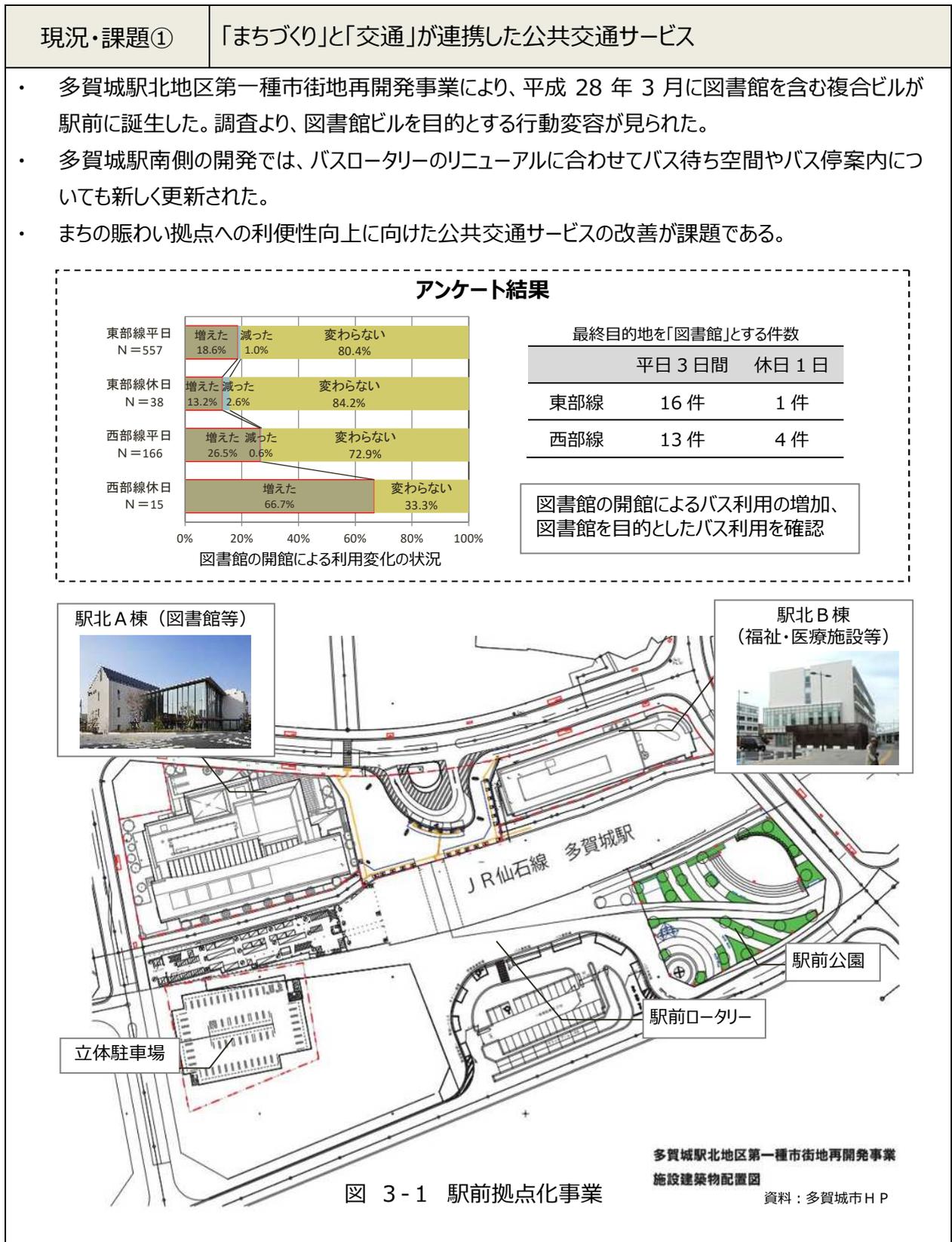


図 3-1 駅前拠点化事業

資料：多賀城市HP

現況・課題②

復興関連事業の進捗に合わせたネットワークの再編

- ・ 災害公営住宅4棟の整備が完了し、仮設住宅の解消や防災・減災・産業復興支援の新たな拠点「さんみらい多賀城・復興団地」の整備が進んでおり、これら復興関連事業の進捗・完了を踏まえ、公共交通の見直し・検討が必要である。
- ・ 平成28年末に完成した「宮内地区災害公営住宅」は、バス停からの距離が700m以上とやや遠いことから、居住者のニーズを踏まえてバスルートの検討が必要である。
- ・ 仮設住宅の解消により、仮設住宅前（「旧山王市営住宅前」、「多賀城苑前」）を経由するルートで運行している多賀城西部線については、地区の交通需要を精査し、バスルート再編の検討が必要である。
- ・ 「さんみらい多賀城・復興団地」については、バス需要の観測を行い対応の検討する必要がある。



現況・課題③

安定的なバス事業経営が課題

- ・ 乗車人数は過去5年間で増加傾向にあり、収支状況も改善しているが、多賀城西部線における収支率は約30%であり、より一層の改善が必要である。
- ・ そのためには、路線の定着化と新規利用者の開拓、それに伴いバスサービスの向上が必要である。
- ・ 消費増税等、社会情勢の変化を見据えた継続的な運賃体系の見直しや、改善の検討を行う必要がある。

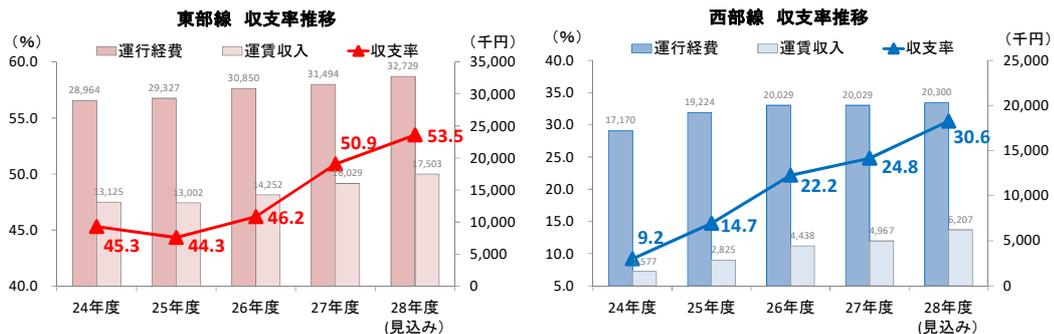
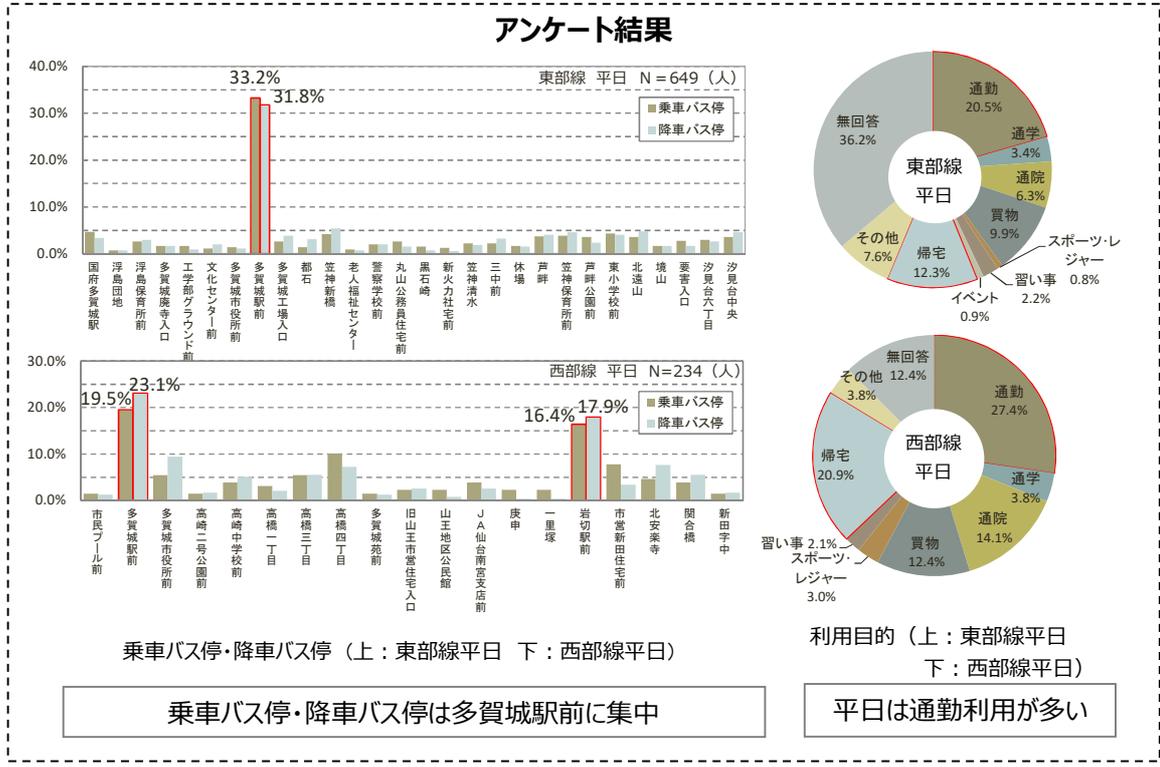


図 3-2 収支率推移 (左：東部線 右：西部線)

現況・課題④ 鉄道・バス乗り継ぎ需要に対応した交通拠点づくり

- 調査結果から「通勤」利用が多く、多賀城駅での乗り継ぎ需要が多く見られた。
- 一方、鉄道や他の路線バスとの乗り継ぎを考慮したダイヤを求める意見もあり、鉄道ダイヤに対応し、また道路の混雑状況によりバスの遅れが発生することを見越したダイヤを設定する必要がある。
- ダイヤ調整だけでなく、バス停及び情報提供の集約等の改善が求められる。



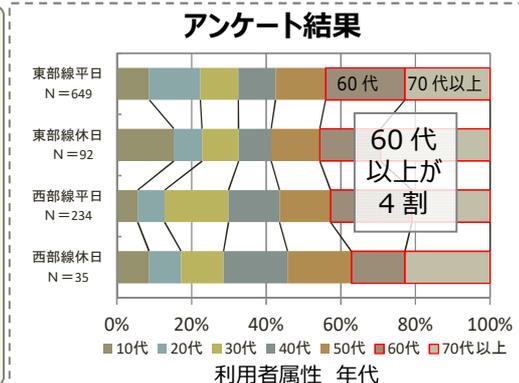
現況・課題⑤ 高齢者・免許返納者の増加など需要変化への対応

- 市内における高齢化率は 22.7% (平成 29 年 1 月時時点) と比較的低い状況ではあるが、年々高齢化率は高まっており、免許返納者数が増加することが見込まれる。
- 調査結果から利用者の 4 割が 60 代以上で、通院・買物を目的とした利用が多いことを把握している。
- 高齢化社会の進展を見据え、高齢者の利用特性に合わせた対応、運転手の声掛けや安全な運行などの実行によるサービス水準の向上等の取組を行い、移動手段を確保することが重要である。
- また、自動車から公共交通への転換を促すため、免許返納者への対応等について検討することが必要である。

参考 免許自主返納者に対する県内支援状況

- 交通への支援
  - 市：8市 / 14市中
  - 町：17町 / 20町中
  - 村：1村 / 1村中
  - 事業所：3事業所
- 日常生活への支援
  - 事業所：24事業所

資料：宮城県警察、運転免許自主返納者に対する支援施策の実施状況



現況・課題⑥ わかりにくい利用環境

- 多賀城駅前、複数のバス停が設置されており、慣れない利用者にはわかりにくい。
- また、バス停の時刻表等の利用案内が煩雑であり、路線間での統一がなされておらず、わかりにくい。
- 多賀城西部線は循環路線のため、「どこにいるのか？どこへ行くのか？」など運行状況がわかりにくいという意見もあった。
- バスの情報が利用者に届いていないケースがあり、戦略的に情報伝達をする必要がある。



図 3-3 バス停 (左：東部線、右：西部線)

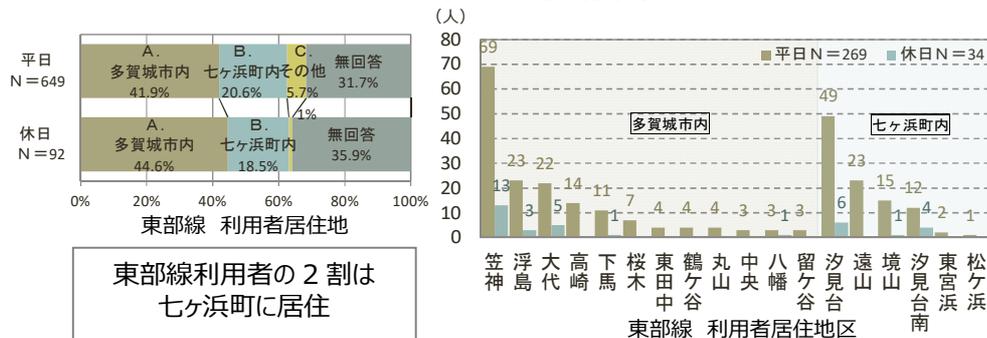
現況・課題⑦ 隣接市町の利用需要への対応

- 市内を走るバスは 8 路線あり、仙台市や七ヶ浜町など隣接市町に跨っており、隣接市町を含めた調整が必要と考えられる。
- 調査結果から、本市が支援している多賀城東部線は市境周辺及び七ヶ浜町の利用需要が多く、また仙台市、塩釜市からも乗車していることを把握している。
- バス事業者によってバス停の利用案内やバスマップ、HP 等でのバス情報の公開形式、料金支払い方法が異なっているため、慣れない利用者にはわかりにくい状況である。

表 3-1 市内を運行するバス路線

事業者	路線バス	経由市町	支払い方法
(株)ミヤコーバス	多賀城東部線	多賀城市、七ヶ浜町	現金、ICカード
	汐見台団地線	多賀城市、七ヶ浜町	現金、ICカード、定期券
	荒井多賀城線	仙台市、多賀城市	現金、ICカード、定期券
(株)仙塩交通	多賀城西部線	多賀城市、仙台市	現金、フリーパス、回数券
(株)ジャパン交通	NEW しおナビ 100 円バス	塩釜市、多賀城市	現金
	七ヶ浜町民バス ぐるりんこ	七ヶ浜町、塩釜市、多賀城市	現金、フリーパス、回数券
仙台市交通局	85 系統・205 系統	仙台市、多賀城市	現金、ICカード、定期券

アンケート結果 (東部線)



3-2 課題解決に向けた計画を策定する上でのポイント

- ・「3-1 現況・課題の整理」から、課題に対し計画を策定する上でのポイントを以下のようにとまとめる。

現況・課題	内容	計画を策定する上でのポイント
① 「まちづくり」と「交通」が連携した公共交通サービスが課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■多賀城駅前に立地した市立図書館を目的とする行動変容が見られた。</li> <li>■まちの賑わい拠点への利便性向上に向けた公共交通サービスの改善が課題。</li> </ul>	<p><b>POINT① 「まちづくり」と一体となった生活交通の再編</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前再開発事業・駅リニューアルにマッチングした公共交通サービスの提供</li> <li>・復興事業の進捗状況を見据え、まちの変化に対応した公共交通に改善【具体的な取組】</li> <li>・市立図書館・多賀城駅を拠点とし、行動特性に対応した生活交通の再編の検討</li> <li>・多賀城東部線の市内完結路線化の再検討</li> <li>・災害公営住宅の完成、仮設住宅の解消に合わせた生活交通の再編の検討</li> </ul>
② 復興関連事業の進捗に合わせたネットワークの再編	<ul style="list-style-type: none"> <li>■仮設住宅の解消、災害公営住宅の完成に伴い、ルート再編が課題。</li> <li>■「宮内災害公営住宅」はバス停がやや遠い。</li> <li>■「さんみらい多賀城・復興団地」のバスの利用に関するニーズの把握が必要。</li> <li>■復興関連事業の完成・終了に合わせた公共交通の見直し検討が必要。</li> </ul>	<p><b>POINT② 自立した持続可能な生活交通サービスの提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前計画の事業継続による既存利用者の維持と新規需要の掘り起こし</li> <li>・過度に国等の支援に頼らず、黒字化に向けた事業経営に改善【具体的な取組】</li> <li>・運賃体系の継続的な検討／更にわかりやすい運賃支払い環境づくり</li> <li>・運賃外収入の事業スキームの検討（市立図書館・商業施設とのタイアップなど）</li> </ul>
③ 利用定着・増加傾向だが安定的なバス事業経営が課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■乗車人数は過去5年間で増加傾向にあり、収支状況は改善している。</li> <li>■しかし、現状では赤字運行であり、より一層の改善が必要である。</li> <li>■消費増税等、社会情勢の変化を見据えた継続的な運賃体系の見直し・改善の検討を行う必要がある。</li> </ul>	<p><b>POINT③ 鉄道駅を中心とした生活交通ネットワークの形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JRの乗り継ぎ利用需要に対応するため、運行ダイヤの品質向上</li> <li>・駅のバス停を集約しわかりやすい拠点づくり【具体的な取組】</li> <li>・鉄道と路線バスの乗り継ぎ・接続に配慮したルート・ダイヤの微調整</li> <li>・駅のバス停を集約・統合/駅とバス停間の案内誘導を整備</li> </ul>
④ 鉄道・バス乗りの継ぎ需要に対応した交通拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■調査結果から「通勤」利用が多く、多賀城駅での乗り継ぎ需要が多く見られた。また、「鉄道とバスのダイヤがギリギリで乗り継ぎできない」と言った意見もあった。</li> <li>■鉄道とバスのダイヤ調整だけでなく、上記課題解決に向けた、バス停及び情報提供の集約等の改善が求められる。</li> </ul>	<p><b>POINT④ 誰でもわかりやすく・使いやすい利用環境づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者・妊婦・外国人など誰でもわかりやすく、使いやすい利用環境づくり</li> <li>・どこを走っているのか？いつくるのか？などが誰でもわかる情報提供の実施【具体的な取組】</li> <li>・時刻表・ルート等のデザインの統一/運転手の接客対応の改善</li> <li>・車内の運行情報提供・案内の実施</li> </ul>
⑤ 高齢者・免許返納者の増加など需要変化への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>■調査結果では、高齢者の利用が4割を占めている（主に通院・買い物）。</li> <li>■今後、高齢者の増加に伴い、免許返納者も増加することが想定される。最低限のおでかけ機会をいかに提供するかが課題。</li> </ul>	<p><b>POINT⑤ 多様な主体と連携した生活交通ネットワークの維持</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記①～④を実現するため、隣接市町の担当者間調整</li> <li>・交通事業者との連携や地域住民への継続的なニーズを把握【具体的な取組】</li> <li>・担当者レベルによる協議・調整</li> <li>・情報共有を図るため地域公共交通会議等の開催</li> </ul>
⑥ わかりにくい利用環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>■多賀城駅前には、仙台市や七ヶ浜町などから乗り入れられているバスの停車場となっており、複数のバス停が設置されている。慣れない利用者にはわかりにくいことが課題。</li> <li>■多賀城西部線は循環路線のため、「どこにいるのか？どこへ行くのか？」など運行状況がわかりにくいという意見もあった。</li> </ul>	<p><b>POINT④ 誰でもわかりやすく・使いやすい利用環境づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者・妊婦・外国人など誰でもわかりやすく、使いやすい利用環境づくり</li> <li>・どこを走っているのか？いつくるのか？などが誰でもわかる情報提供の実施【具体的な取組】</li> <li>・時刻表・ルート等のデザインの統一/運転手の接客対応の改善</li> <li>・車内の運行情報提供・案内の実施</li> </ul>
⑦ 隣接市町の利用需要への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>■本市が運行している「多賀城東部線」の利用を見ると市境周辺及び七ヶ浜町の利用需要が多い。また、仙台市、塩釜市からも乗車している。</li> <li>■地域特性から隣接市町からのバス需要があるため、地域間の調整が課題。</li> </ul>	<p><b>POINT⑤ 多様な主体と連携した生活交通ネットワークの維持</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記①～④を実現するため、隣接市町の担当者間調整</li> <li>・交通事業者との連携や地域住民への継続的なニーズを把握【具体的な取組】</li> <li>・担当者レベルによる協議・調整</li> <li>・情報共有を図るため地域公共交通会議等の開催</li> </ul>

